

# NPO 法人 若葉

## 1. 概要

設立年	平成20年2月
設立目的	自然環境保護による人間との共存や生物多様性保全が目的
活動内容	現在の山の状況では野生鳥獣の保護管理捕獲が最優先と判断し、特定の地域やしがらみにとらわれず、効果的な手法での捕獲を実践しながら保護管理の専門事業者（日本版のホワイトバッファロー（注））を目指した人材教育を行ってきた。
会員数等	役員・社員合計15名、捕獲隊員43名（その他友好団体多数） 環境省の人材登録事業による鳥獣保護管理捕獲コーディネータ2名在籍（1名は貴重な鹿マタギの技術を受け継ぎ卓越した山見能力を有し、優れた捕獲作戦を指揮する能力が高い。 もう1名はISSFランニングターゲット競技 全日本選手権 準優勝 一都八県親睦R・S射撃大会 個人優勝・部門優勝・団体優勝等 卓越した射撃技術を有し、難しい捕獲作戦を実行する能力を有する。） 国際審判員・射撃教習員・武器製造販売員・私設射場等、教育体制完備 各地域のNo.1射手が10名以上在籍し、平均年齢も低い 今後、10年以上に渡って活動可能。

（注）ホワイトバッファロー：White Buffalo, Inc., 1995年にアメリカ合衆国に設立された生態系保全と野生動物保護管理を専門とするNPO法人。スタッフには、博士号を有する研究者と専門の捕獲技術者がいる。2010年に来日し、東京農工大学で開催された「野生動物管理の担い手育成に係る国際シンポジウム」で効果的なシカ個体数管理法としてシャープシューティング（誘引狙撃法）を紹介した。以下に活動が紹介されている。

<http://www.whitebuffaloinc.org/index.html>

## 2. 主な活動

- （1）静岡県伊豆地域のシカ個体数管理調整事業に従事  
担当地域（伊豆森林管理署国有林）では個体数低減が確認されている。
- （2）緊急雇用費を初めて捕獲事業に使う事に成功、他の模範となる。
- （3）静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターの研究に協力  
ワナ捕獲後の止めさし技術の開発に協力し、空気銃の使用範囲拡大に貢献
- （4）富士宮市鳥獣被害防止対策協議会  
「ニホンジカとの共存に向けた生息環境等整備モデル事業」に参加

## 安全・確実・効率のよいシカ捕獲手法の開発に貢献

### 3. 意見

#### (1) 捕獲組織

富士山での誘引狙撃法が、通常の捕獲の50倍以上にもものぼる捕獲効率を得たのは、三位一体の理想的な捕獲チームの体制が出来たことによると思われます。具体的には地権者・研究者・捕獲者が一体となって成功したのです。

例えば、地権者及び行政サイドは地域やしがらみを超越し、他の事業と同様にとらえ適正な業者に委託するスタンスを貫き通し、安全対策も万全に準備した事。

研究部門は日本を代表する学識経験者の先生方で、誘引に関しては国内最先端の出没時間帯のコントロール技術を、富士山版に修正して惜しみなく導入し有効な誘引を行った事。捕獲部門は有効な狙撃を行うため入念な山見をし、メンバーを厳選し捕獲に有効な銃の製造、弾の開発から始め、誘引狙撃をイメージした射撃トレーニングを重ね本番に備えた事等、それぞれが高い意識・知識・技術があり、どれか一つ抜けても成功はありません。

◎今後、このような成功事例を増やすためには、同様のチーム作りが不可欠と考えます。

#### 総括

##### ○ハンターの減少と高齢化の対応

伝統的な狩猟方法とは異なる新たな捕獲方法の開発と、普及を担う実績あるコーディネータの育成と活用が重要である。

##### ○事業者として持続的かつ効率的に捕獲等を実施していくための条件や制約

捕獲団体は地域に縛られない組織で、卓越した射撃技術と銃の専門知識を持っている事。有効な捕獲法を選べる引出の多さと、チームとしての行動が出来る協調性を持つ事。

##### ○今後事業者の裾野を広げるヒント

上記の専門知識を持ち合わせた上で後輩指導の実績も長く、指導した人間が第一線で活躍するまで育てた経験者が多数在籍している事。

#### (2) 捕獲方法

ハンターの減少と高齢化に対応するため、少人数で個体数削減に効果的な新たな捕獲方法を開発させる必要があり、諸外国では少数のプロ捕獲者や組織が個体数調整を行っている。対処捕獲の有害捕獲とは全く異質の捕獲である認識を行政が持つ必要が有る。

新たな捕獲手法を開発させるために障害となる法制度上の制限を緩和または撤廃する。  
シカの少数の群れの全頭捕獲には小口径ライフル銃はきわめて有効であるので、小口径ライフル銃の所持とクリーンキルのための射撃技術の裏付けが必須。

しかし、誘引狙撃法が有効だからと安易に手近の団体に行わせるのは大変危険で、今まで安全に行ってきた誘引狙撃でも起きるのは容易に想像できる。一旦事故が起きれば今後の個体数管理にブレーキを掛けてしまう可能性が非常に高い。したがって誘引狙撃法の従事者は厳格に規制すべきである。

我々からの行政機関への要望は、規制すべき所はキッチリ規制し安全を確保し、代わりに安全が確保できれば一部規制を緩和する事によって効果的な大量捕獲を行うことを可能にすることです。今後このような個体数管理を進めて頂ければ、より少ない人数でより安全・確実な捕獲が可能になると思います。

要請があれば我々は喜んで協力して行きたいと思います。

山鹿ニホンシカによる食害問題

12回の誘引捕獲で199頭

市鳥獣被害防止対策協 14日に成果説明会

ニホンシカによる食害が問題となっている富士山麓。富士宮市鳥獣被害防止対策協議会(会長・堀江裕之環境経済部長)は1月上旬から2月中旬にかけて、富士宮市内の国有林内

で昨年に引き続き「ニホンシカの誘引捕獲」を実施し、12回で199頭を捕獲した。14日には県富士総合庁舎で餌はハイキューブ(乾燥牧草を10センチ程度のブロック状に固めたもの)を使用し、給餌に

よって定期的にシカが日中出没するよう学習させ、1度で群れの全ての捕獲を目指した。実施結果を見ると、1月11日が23頭、15日が6頭、18日が23頭、22日が18頭、25日が15頭、30日が16頭、2月1日が12頭、5日が13頭、8日が22頭、12日が19頭、15日が13頭、22日が19頭となり、2人の射手が12日間(各日6時間)で合計199頭を捕獲した。遭遇した群れの数は348群れ、うち射撃を行ったのは191群れ。群れ全体を捕獲したのは73件で、全頭捕獲率は38%だった。捕獲効率で見ると、1日8時間換算で1人11頭となり、一般狩猟の約50倍となる計算。成果説明会は14日午後1時30分から、富士市本市場の県富士総合庁舎で行う予定。

富士宮市と林野庁静岡森林管理署(坂元邦夫署長)、県林業技術

研究所森林・林業研究センター(伊藤副武センター長)などで構成する同協議会は「ニホンシカとの共存に向けた生息環境等整備モデル事業」の被害対策として2010年度からニホンシカの生息状況等調査、被害状況調査、共存に向けた対策(シカの侵入防止柵など)を実施してきた。

昨年度はニホンシカを効果的に捕獲する方法として、米国で個体数管理に奏功しているシャープシューティング法を試行的に実施。誘引狙撃法とも言われ、野生のシカを一時的に餌付けして小人数が銃器で群れの全ての個体を捕獲する。無用に警戒心の強い個体の出現を防ぎ、捕獲を継続させることが可能で、効率的に個体数管理を実施することができると見られる。昨年は6回の実施で73頭を捕獲する成果を挙げ、今年度は同時期に日数を2倍にして実施した。

# 鳥獣捕獲が行われた地域で、すでに警戒心を持った個体が多く、立ち木の陰やササにより群れ全体の把握や有効な射撃ポイントを抑えることが難しくなったが、遭遇群れ数や捕獲数など、捕獲効率は高いことが確認されたという。

## 富士宮市鳥獣被害防止対策協 6回の実施で73頭

富士山麓に数多く生息するニホンシカによる被害が問題となっており、富士宮市鳥獣被害防止対策協議会(会長・芦沢正環境経済部長)は1月下旬から2月上旬にかけて、富士宮市内の国有林内で初の「ニホンシカ誘引捕獲」を実施し、6回で73頭を捕獲した。今後、分析・検証を行い、シカ捕獲対策の有効性を把握し、県、市町、研究機関、鳥獣被害対策関係者に情報提供し、ニホンシカの頭数調整の推進を図るとしている。

誘引捕獲は、今回試行的に実施した。誘引狙撃法とも言われ、野生のシカを一時的に餌付けして少人数が銃器で群れの全ての個体を捕獲する。無用に警戒心の強い個体の出現を防ぎ、捕獲を継続させることが可能で、効率的に個体数管理を実施することができるとしている。

今回は富士山国有林内の上井出林道および北山林道沿いの林地19カ所に給餌場所を選定。餌はハイキューブ(乾草を10%含む程度のプロック状に固めたもの)を使用し、給餌によって定期的にシカが出没するよう学習させ、群れ全体を一度で捕獲することから、誘引する群れが小規模になるよう状況に応じて給餌量をコントロールしたという。

今年度は特にニホンシカを効果的に捕獲する方法を検討。米国で個体数管理に奏功して

なことから、最初の4回は3頭以下の群れで周囲に他の群れがないことを捕獲基準として実施。最後の2回は群れの反応を確認・調査するため4頭以上の群れでも実施した。

6回で遭遇したのは合わせて104群れで、射撃したのは68群れ。68群れのうち全頭を捕獲できたのは38群れで5割強だった。捕獲したのは73頭となった。周辺は昨年度、有害鳥獣捕獲が行われた地域で、すでに警戒心を持った個体が多く、立ち木の陰やササにより群れ全体の把握や有効な射撃ポイントを抑えることが難しくなったが、遭遇群れ数や捕獲数など、捕獲効率は高いことが確認されたという。

試行結果については3月11日、富士宮市役所で報告会を予定。捕獲に加わった学識経験者や捕獲の実践者などによる成果説明を行う。